

## F-REI 市町村座談会（田村市）議事要旨

1. 日 時 令和5年8月29日(火) 16:30～17:30

2. 場 所 テラス石森 コワーキングスペース

### 3. 議 事

(1) 開 会

(2) 挨拶

(3) F-REI の取組紹介

(4) 意見交換

<テーマ> F-REI との未来の連携について

(5) 閉 会

#### 【主な発言内容】

- サツマイモは冬場に干し芋に加工したり、焼き芋等として3月末ごろまで直売所で販売している。オンラインショップでも全国から好評である。
- 葉たばこの廃作等による遊休農地を解消する作物としてサツマイモの栽培を広めていきたい。
- 販路拡大のため、サツマイモの加工品に力を入れていきたい。
- エゴマを用いた製品の生産、販売を行っている。当協議会は、令和2年4月に2つの団体の統合で設立された。
- エゴマ油については、令和5年1月31日に農林水産大臣より地理的表示保護制度(GI)の認定がされた。
- 生産工程の機械化や販路拡大に向けた取組を行っていきたい。
- ウナギの養殖、蒲焼やうなぎ入りおむすびの商品販売を行っているが、電気代の高騰により、厳しい経営となっている。今後はバイオマス発電の廃熱を利用していきたいと思っている。

- 閉鎖型の陸上養殖で、水は通常かけ流しであるが、当社は循環ろ過して使用している。
- うなぎの完全養殖についてもマニュアル作成の段階まで進めているが、人材不足と資金面で中断している。地元の有志の方々ともしろいろと取り組み、喜多方ラーメンのように田村のウナギもブランド化していきたいと考えている。
- 当社は、自動車用の空調関係、エンジンの部品を生産しており、当初から再生可能エネルギーに力を入れている。今春から、水電解装置で利用して工場内のエネルギーを水素に置き換える実証を行っている。
- 水素はコストが高く、今は採算が取れない。そのため、広く見学者を受け入れ、私たちが経験したことを包み隠さず伝えることで私たちの取組に共感していただき、仲間に加わっていただけるような活動をしている。需要や供給が増えればコストも下がることが期待できる。F-REI もこうしたスキームを活用して、仲間が増えることを期待している。
- 当社は、会津若松市に2か所の生産拠点があり、田村市に新たに工場を建設する予定である。半導体の製造工程で必要とされる石英ガラス製品を製造している。
- 石英ガラス製品の製造工程で水素ガスを用いる必要があるが、その水素ガスを外部調達ではなく、二酸化炭素を発生しない地下水と太陽光による水電解方式で生成する予定である。生成した余剰分については、地域に供給し活用してもらうことを考えている。
- 本校では平成28年度からドローンに関する取組を田村市と連携して行っている。田村市と慶應義塾大学との連携協定のもと、ドローンの人材育成のためドローンの特別講座を行っている。生徒は、ドローンによる物流や農業や獣害対策などの利活用について学んでいる。ドローンで田村市役所を上空から撮影し3Dプリンターで出力したモデルを市役所に寄贈する等の活動を行っている。
- 活動の成果としては、大学の機械工学の学科に進学やドローンを活用している企業に就職する生徒が出始めており、地元で貢献できる人材育成の成果が出つつあると考えている。
- F-REI の最先端の研究成果を地元の子どもが触れることができれば、生徒たちの活動の励みになる。

- 最先端の技術に触れるためにドローン科学探究部に入った。ドローンの利活用や可能性を学んでいく中で、ドローンの将来性と魅力を感じている。
- 町では高齢化が進み、農業等で耕作放棄地や廃農等の後継者問題が生じている。ドローンやロボットの最先端技術の可能性、魅力を学び、地元で貢献できるような人材になりたいと考えている。
- この地域は少子高齢化が進み、空き家や耕作放棄地が増えている。無人で作業できるものがあれば、効率的な活動ができる。
- ロボットは、廃炉作業現場や災害現場での作業に役に立つほか、人手不足の地域の生活も豊かになることをプログラミングや自動操縦で学んで感じた。
- 手足がうまく動かないことがある高齢者もロボットの力を借りて快適な生活ができる。こうした研究に関心を持っている。
- 本日の座談会で出た課題をぜひ F-REI の研究テーマの中に取り込んでいただき、それを田村市が実証できるようになればよいと思う。
- 本日は学生も出席しているが、将来的に F-REI を就職先としていただければと思う。令和 8 年度に船引高校と小野高校の統合で設立される高校に F-REI につながるような学科ができることを望んでいる。そこから大学に進学し、F-REI に就職するようになれば良いと考えている。